お知らせ

平成３０年１１月２２日
東 北 地 方 整 備 局

平成３０年度「手づくり郷土賞」が選定されました

～東北管内から『３件』選定（岩手県２件、山形県１件）～

本日、平成 30 年度「手づくり郷土賞」（国土交通大臣表彰）の選定について、国土交通省総合政策局において記者発表されましたのでお知らせいたします。
また、平成 30 年 12 月 16 日に「手づくり郷土賞受賞記念発表会～グランプリ 2018～」を開催しますので、あわせてお知らせいたします。
詳細については別紙を参照ください。

東北管内からは、

○**岩手県一関市の北上川、砂鉄川、千厩川の３つの河川が合流する場所を拠点に活動している『水害常襲地からの脱却！川との戦いから川とのふれあいへ（特定非営利活動法人　北上川サポート協会）』**

○**岩手県陸前高田市で高田松原の再生活動をしている『名勝・高田松原の再生をめざして（特定非営利活動法人　高田松原を守る会）』**

○**山形県西川町で雪を有効活用した取り組みをしている『月山志津温泉雪旅籠の灯り～雪は宝～（月山志津温泉雪旅籠の灯り実行委員会）』**

の 3 件が一般部門で選定されました。なお、一関市では 2 年連続 4 回目、陸前高田市では 2 年ぶり 2 回目となり、岩手県内で 3 年連続の受賞となります。また、西川町では 14 年ぶり 2 回目となり、山形県内では 2 年ぶりの受賞となります。

今後、「手づくり郷土賞」の認定証授与式を予定しておりますが、詳細については、別途お知らせいたします。

＜お知らせ先：岩手県政記者クラブ、宮城県政記者会、山形県政記者クラブ、
東北電力記者会、東北専門記者会＞

国土交通省　東北地方整備局　０２２－２２５－２１７１（代表）

企画部　企画課長補佐 桐山　久夫　（内線３１５６）

平成３０年度　手づくり郷土賞　【一般部門】　受賞案件概要　東北：３件

案件名　水害常襲地からの脱却！川との戦いから川とのふれあいへ（岩手県・一関市）

▲川の流れ方、助け方の勉強会

▲北上川流域交流Eボート大会

＜活動内容＞

一関市川崎町は、川からの恩恵を受けている一方で水害常襲地帯でもあった。そのため、川に対するマイナスイメージが強いものとなり、水辺に親しむ機会が薄れてきた。そこで、「川との共生」を目指そうという想いから活動を開始し、地域住民と共に水辺創造活動（水生生物調査等）や環境保全活動（清掃活動等）、自然学習活動（カヌー体験等）等の多岐にわたる活動を行っており、中でも北上川流域交流Eボート体験はEボート大会としての規模は日本一であり、多くの参加者が水辺に親しむ機会へと繋げている。

＜活動主体＞

特定非営利活動法人　北上川サポート協会

＜対象となる社会資本＞

一級河川　北上川水系北上川・砂鉄川
※管理者：国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

案件名　名勝・高田松原(たかたまつばら)の再生をめざして（宮城県・陸前高田市）

▲高田松原再生植樹祭

▲高田松原再生講座

＜活動内容＞

東日本大震災前から任意団体として高田松原海岸の松林維持管理活動を続けていたが、震災後にNPO法人に移行し、高田松原の再生のため精力的に活動を続けている。支援団体やボランティアと協力しながらの植樹祭（H29 3回のべ584人参加）の開催の他、「高田松原再生講座」の開催（140人参加）、「わたしの高田松原作品コンクール」（160作品）の開催等を通じて、高田松原再生への関心拡大に寄与している。また、これらの活動を通じて、陸前高田市の交流人口拡大に貢献している。

＜活動主体＞

特定非営利活動法人高田松原を守る会

＜対象となる社会資本＞

高田松原海岸
※管理者：岩手県

案件名　月山志津温泉雪旅籠の灯り～雪は宝～（山形県・西川町）

▲学生ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱによる雪旅籠製作状況

▲多くの人が訪れる雪旅籠

＜活動内容＞

豪雪地帯である西川町において、生活から排除するだけだった雪を有効活用し、当時の六十里越街道の宿場の町並みを再現するイベントを開催。地元旅館組合や町とつながりのある大学等にも協力してもらい運営している。県内外から多くの参加者が訪れ、これまでに13回目を迎え、昨年度は5,700人の来場者があった。

大学からは、雪旅籠の安全性・デザイン性等の助言を受けつつ、製作にも学生ボランティアとして携わり、卒業後は友人・家族と訪れるなど、継続・発展したイベントに繋げている。

＜活動主体＞

月山志津温泉雪旅籠の灯り実行委員会

＜対象となる社会資本＞

国道112号
※管理者：山形県